

JP Patent Application No. S53-163906

Tensile Force Concentrating Building Formed With Flat Outer Block

Abstract

The purpose of this invention is to provide a tensile force concentrating building, the sides of which are formed with flat outer blocks, and thus the external of the building is formed with symmetry. A floor 3 is formed by attaching equal-length pillar-shape members on a base 1 in the shape of a regular pentagon, the pillar-shape members being irregular L-shape steel materials at 120-degree interior angle and having the sharp ends thereof of 54-degree. Outer walls 4, 10 are constructed by forming regular pentagons with equal-length pillars 2 on the pillar-shape members, and strongly attaching the joints of the pillar-shape members 2, in the same manner as the floor. Finally, the building is completed by conducting the interior and exterior work at each floor. Accordingly, the solar heat energy can be utilized, and also the lower space and ground level can be utilized, and further the building components can be mass-produced in factories.

⑬ 日本国特許庁 (JP)
⑭ 公開特許公報 (A)

⑮ 特許出願公開

昭55—89555

⑯ Int. Cl.³
E 04 B 1/00

識別記号

庁内整理番号
6434—2E

⑰ 公開 昭和55年(1980)7月7日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑱ 外郭を平面域で形成する引張力集積型建築物

東京都渋谷区富ヶ谷1丁目35番
地1号エンパイヤコーポ302号

⑲ 特 願 昭53—163906

⑳ 出 願 人 石橋猛敏

㉑ 出 願 昭53(1978)12月26日

東京都渋谷区富ヶ谷1丁目35番

㉒ 発 明 者 石橋猛敏

地1号エンパイヤコーポ302号

明 細 書

1. 発明の名称

外郭を平面域で形成する引張力集積型建築物

2. 特許請求の範囲

建築物が建築されるべき床面域内に、基礎(Ⅰ)を構築し、この基礎(Ⅰ)の上に、同一の長さの柱状部材(Ⅱ)を、正五角形に形成個層し床面(Ⅲ)とする。

次に、その正五角形に形成された柱状部材(Ⅱ)の上部に、床面(Ⅲ)と同じく、同一の長さの柱状部材(Ⅳ)によって、順次均等に正五角形を形成し、柱状部材(Ⅳ)の各接点を強力個層し外壁面(Ⅴ)とする。

次に、柱状部材(Ⅳ)の最後に骨組み個層され形成された、正五角形を屋上面(Ⅵ)とする。

以上の如く、地上床面(Ⅲ)屋上面(Ⅵ)も含めて、建築物の外郭を、柱心を基準に30の辺と、20の接点を有し、12の正五角形で形成する事を特徴とし、その内部を建築物内部空間とする、平面域構成から成る引張力集積型の、外郭を平面域で形成する引張力集積型建築物。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、従来の引張力集積型建築物を、より発展させ具体化し、その面を平面域で形成する事によって、一般化する事が出来る。又、建築物の外郭空間的概念をも取り入れる事によって、高度に開発され、建築物として、極めて調和のとれた、外郭を平面域で形成する引張力集積型建築物に関する。

従来、引張力集積型の構造体から成る建築物は一般に球形であって、それらは、1962年11月23日発行の米国特許3062521号等から派生されている。このドーム建築物、及び、球状の建築物は、その構造において引張力集積型であるが、その外郭を形成する、面において、球状面をまねがれない。一部改良され平面域を取り入れた、ものとして、わが国へ出願公告となった、昭52—35452号等があるが、これも完成された、平面域形成から成る引張力集積型建築物とはいえない。

今日われわれは、都市における日照権の問題を考へる時、地上の空間も、土地面積と同様に、一

定である、と考えねばならない。この発明は、一定の地上面積と、一定の地上空間に、最大限の建築物内部空間と、人間に必要な最大限の建築物外部空間を有し、引張力集積型の強固な耐震構造から成る、調和のとれた建築物の発明である。

この発明の実施例を、柱状部材(2)を内角に120°の変形L形鋼材とし、三階建て建築物として、図面によって説明する。

(1) 建築物が建築されるべき床面積内に、基礎(1)を構築する。

(2) この基礎(1)の上に、一定の長さで内角に120°の変形L形鋼材の、両先端の鋼材面を、それぞれ54°の尖った鋭角状に切断した柱状部材を、正五角形に形成個層し床面(3)とする。

(3) その正五角形に形成された、柱状部材(2)の上端に、床面と同じく、同一の長さの柱状部材(2)によって、順次均等に正五角形を形成し、柱状部材(2)の各接点を強力個層し、以後に外壁面(4)となすべく10面を形成する。

(4) 柱状部材(2)の最後に骨組み個層され形成さ

-3-

特開昭55-89555 (2)

れた、正五角形を建築物屋上面(5)とする。

(5) 建築物床面(3)、二階床面(6)、三階床面(7)、屋上面(5)をそれぞれの接すべく、柱状部材(2)につり上げ状に造設施工する。

(6) 建築物の斜面にあたる、外壁面(4)10面をそれぞれ造設施工する。

(7) 最後に、各階の内外装工事を行い、建築物を完成する。

この発明の効果を説明する。

1) 斜面外壁(4)とされた建築物外部空間において、その上部空間の、太陽熱エネルギー等の利用、及び下部空間の、地表上面の利用。

2) 多数の同一建築部材、部品により構成されているので、工場での大量生産が可能。

3) 建築物の自荷重、内外作用力を、建築物の外郭によるほぼ均等な圧力と引張力によって、強固に保持する事が出来る、耐震建築構造。

4) 引張力集積型の構造建築によって、建築物の軽量化が出来る。

5) 上記の効果から成る、建築資材、及び労力

-4-

の省力化。

尚、この発明の主要部である、外郭を形成する柱状部材を、正五角形のパネル、及び正五角形のワタ、としてもよい。

4. 図面の簡単な説明

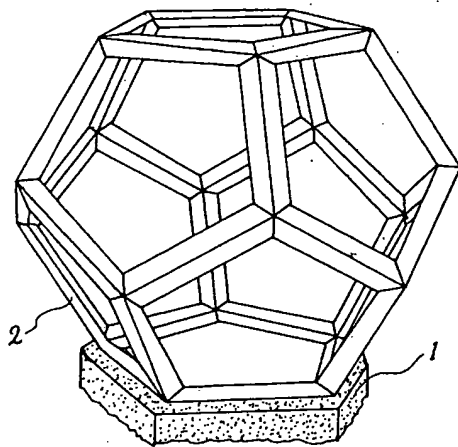
第1図は建築物の骨組図、第2図は建築物の実施例正面図で、一部断面で示す。

(1) ……基礎、(2) ……柱状部材、(3) ……床面、(4) ……外壁面、(5) ……屋上面、(6) ……二階床面、(7) ……三階床面、(8) ……円形窓、(9) ……ベランダ、(10) ……屋上手すり。

特開昭55-89555 (2)

図面

第1図



第2図

